

講義名	国際経営論				授業形態	
担当教員	李 東浩	開講期・曜日・時限		後期 水曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード

主題と概要

本授業は双方向・多方向的な授業である。
本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。
本授業の実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育－教学双方の意識転換によるアクティブラーニング－」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104（30頁）。
ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2018）「学部ゼミ運営に関する一探索―「楽しく頑張る」から「ひとづくり」―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp.1-19（19頁）。
大学教育改革に関する論文も公開しており、以下を参照してください。
李東浩（2022）「大学教育の進化と変革―レスポンの活用とコロナ対策のオンライン教育の実像―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第7号 pp.119-134（16頁）。
李東浩（2023）「学習能力の形成と進化 ― 知の定着、深化と探索のパラダイム ―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第8号 pp.107-121（15頁）。
真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める。

到達目標

1. 履修生は、国際経営論を学修するものにとって当然知っておくべき知識を習得できるようになる。国際経営論の基本的な理論を紹介するとともにケーススタディ（事例研究）をも採り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できるようになる。
2. 履修生は、本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、国際経営的な側面から評価し、レポートにまとめることができるようになる。
3. 本授業で得られた国際経営の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的な国際経営計画を作成できるようになる。また、得られた国際経営の理論とケースの知識と能力を身につけ、世界的な大局観を形成できる。
具体的に、 （1）知識・能力・資格を身につける。 本講義を通じて、国際をまたがる多国籍企業の事業活動に関する理解を深め、それに関する基本概念・理論・特徴と実態を把握し、異文化、異なる制度環境といった視点から企業経営を分析する能力を身につける。欧米日本など先進国の企業による国際的な事業展開は勿論長い歴史があるが、新興国企業による国際展開も目覚ましいので、より全体的な理解を構築できるようにする。
（2）思考力・判断力・表現力を向上する。 論理的に基本的な概念・理論と方法を学ぶだけではなく、毎回の授業に実際の企業の事例をも採り上げ、ビデオも活用しながら、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただ単に授業内容とビデオを聞く・見るだけではなく、考えて、判断、討論、発表、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで毎回、知識と能力が身に付き実感できるようにする。

提出課題

1. 各自事前に、最低でも以下4つを使用できるように準備しておいてください。 リユカポータル及び、 アウトLOOKメールoutlook mail及び、 レスポンス及び、 マイクロソフトTeamsアプリ、 などの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。
2. 全員、授業開始前までに、授業専用Teamsグループに必ず参加してください（事前連絡あり）。 参加しないと、すべてのプリント資料やビデオ説明内容、連絡通知等の情報を入手できない！ 当然、単位を修得できないだろう。
3. 毎回レスポンス課題と期末試験（レスポンス課題提出式）の提出があるので、作成要領等の指示に従い、〆切期間中に提出してください。 ただし、単位判定対象となるのは、期末試験（レスポンス課題提出式）の1回分のみである。
4. それ以外の回では、レスポンス課題は自由提出になる。成績に影響を与えない。 ただし、学習勉強と自己成長の効果を実感するため、毎回の提出を勧める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

1. 毎回、前回課題へのフィードバックや振り返りを丁寧に解説する。 優れた提出内容や素晴らしい内容等をメーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。 学習への意欲がモチベーションアップにつながるだろう。
2. 毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示する。 双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しよう。
3. 毎回、自分の学習成果のチェックだけではなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認できる。PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

1. 期末試験（3日間・レスポンス課題提出式）の1回分（100点満点）＋平日発言プラスα点数で総合的に判定する。
2. 期末試験の中間である、内容・要領・期間・時間等について、大学の期末試験期間中（第16週）にポータルシステムとTeamsの両方に提示する。 平日、真面目に授業を履修しないと、簡単に期末試験（レスポンス課題提出式）を完成できない！ ネット等の不具合対策を意識しうよう、余裕をもって、〆切まで期間中に提出してください！（特に〆切の間近に、ネットなど不具合の可能性もあるので、時間の余裕をもって提出してください）。 〆切後の提出は認めない！ レスポンス以外での提出は認めない。 土日休日等、返信が遅くなり、次の授業日にする。 成績に関する問い合わせは受付しない（連絡しても返事しない）。教務部へ問い合わせください。

履修にあたっての注意・助言他

先輩からの以下の意見是非参考してください。 1. 「五感に触れる画期的な授業」； ――充実した内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！
2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」。 ――一方的な授業ではなく、交流の場でもある！
3. 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」； ――知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」 ――単位と知識能力を両立して楽しく取ろう！

教科書

・使用しない。・					

参考図書

・国際経営論への招待。	吉原 英樹（編集）	有斐閣（2002/3/1） 304ページ	171	4641086664

その他

1. 毎回、前回課題へのフィードバックや振り返りを解説する。優れた提出内容や改善してほしい内容等を、メーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。モチベーションアップにつながるだろう。
2. 授業プリント、「先生説明版」と「映像ビデオ版」等配布資料は必ず各自Teams専用グループからアクセス・ダウンロード・印刷等を済ませて教室まで持って来てください。 厳重注意：本授業はリユカポータルには、最初の授業連絡通知と最後の期末試験通知の2回だけを提示するが、その以外の授業資料や授業連絡・レスポンス課題提出等の連絡を一切掲示しない。 代わりにすべての資料・連絡・レスポンス課題等はTeams専用グループに連絡・公開する。 不明の場合、Teams専用グループのチャット機能か、大学のメールでの相談かを利用してください。
3. 授業はPPT・プリント資料、映像、討論で進む。プリントには穴埋めが相当設けられ、授業中のPPTを確認しながら記入してください。

授業計画

授業シラバス。注：（ ）内はビデオ内容。 1 イントロダクション：講義の概要と進め方（日本企業の逆襲第一弾） 2 フラット化する世界とグローバル化への理解（日本企業の逆襲第二弾） 3 小売り企業の海外進出：セブン&アイの中国進出その1（仕事の流儀―三枝@中国 上編） 4 小売り企業の海外進出：セブン&アイの中国進出その2（仕事の流儀―三枝@中国 下編） 5 生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その1（NUMMIの過去、現在と未来 上編） 6 生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その2（NUMMIの過去、現在と未来 下編） 7 国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その1（ソニー神話の真実 上編） 8 国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その1（ソニー神話の真実 下編） 9 国際戦略再掲：鴻海とシャープその1（音響する日本テレビ・メーカー） 10 国際戦略再掲：鴻海とシャープその2（復活するか？東芝王国日本） 11 国際経営と国際企業（海外客を呼ぶ！） 12 国際現場を知ろう：中国の驚かさんへの挑戦（貧富の超格差・爆買いと富裕層貧困層） 13 国際経営の理論基礎（無印良品の中華進出） 14 国際異文化経営（ビジョンの海外進出） 15 国際企業のマーケティング：現地通訳（スキーマの国際経営戦略）
--

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 文科省の大学設置基準第21条より、2単位の授業は90時間（以上）の学習を必要としている。 15回で割ると毎回6時間の学習時間は必要である。
2. 毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。 毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。
3. 毎回、教室の講義とともに、授業専用Teamsグループのプリント資料・ビデオ資料をも生かして、予習・学習・復習をしてください。
4. 予習の一例として、初回目の講義では、「日本企業はなぜ近年業績不振になったのかについて考え、授業中に各自1分ほど発言できる。」のような質問に答えられるように、予習準備をしてください。 復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によっては自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からなく知りたい場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください。」
5. 先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、「李先生」の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しく言動を取ってください。
6. 毎回、「知識は力になる」と、を実感できる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 企業や組織の国際運営の基礎知識や仕組みを自ら主体的な立場から理解できる。共通DP及び業界動向・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。
2. 身につけた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働かせる。自ら考えと理解のDPに貢献できる。
3. 国際経営の戦略立案と実行しながら、現地のニーズにも適応しつつ、柔軟で俊敏に大膽な視野と能力を持つことができる。グローバルへの関心・分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋べたり、発言をする。 映像を見るだけではなく、メモしたり考えたり、レスポンスに回答を出し、発言をする。
1. 質問やクイズなど、積極的に考えて、発言をしてみてください。
2. 他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。
3. 先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。 通り串忠のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。 静かに受講できる環境（私語はとんとない！）。 退屈ではない（退屈の時間さえもない！）。 みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感じよう！）。
